■野外活動のための安心・安全講座

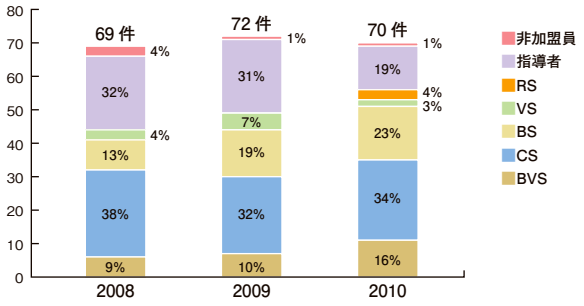
保険申請に見る冬期活動中の事故事例の分析

冬の活動の時期に入る前に、参考にしていただくために、2008年度～2010年度までの事故データを分析しました。

スキー、スケート、スノーボード、そり等、雪上、氷上の事故は、2008年度～2010年度までの3年間は、ほぼ70人程度で推移しております。【図1】

ただし、部門別に見ますと、BVS、BSが増えており、2010年度では、BVS16%、CS34%、BS23%となり、BVS～VSまでで、受傷者割合が75%超となっております。特記すべきは2008年、2009年と3割を占めていた指導者の事故が2010年は、2割弱に減少しました。指導者の事故が減ったことは喜ばしいことです。

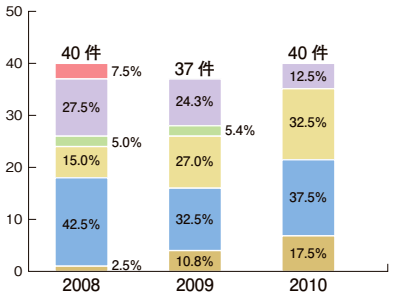
【図1】2008～2010 部門別スキー・スケート等受傷数



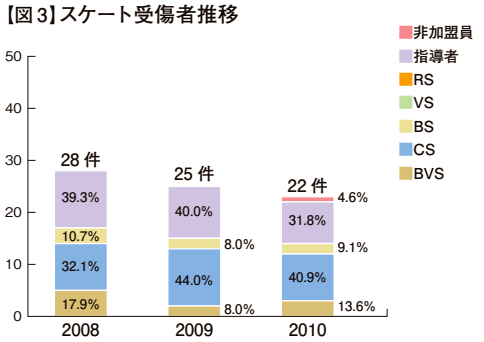
ここで、スキー、スケートにおける部門別の受傷者割合を見てみますと、スキーの場合、受傷者数は毎年40人前後で推移しています。ただし、この3年間でBVSの受傷割合が増えてきています。逆に指導者の受傷割合が減っています。【図2】

これに対して、スケートでは、受傷者数はこの3年間で減ってきていますが、受傷割合は大きな変動はなく、指導者の受傷割合は4割程度で推移しています。【図3】

【図2】スキー受傷者推移



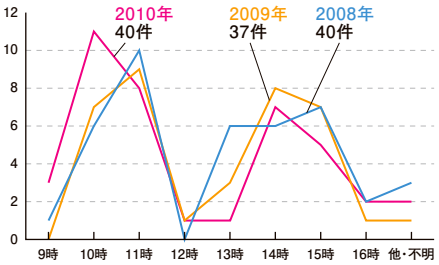
【図3】スケート受傷者推移



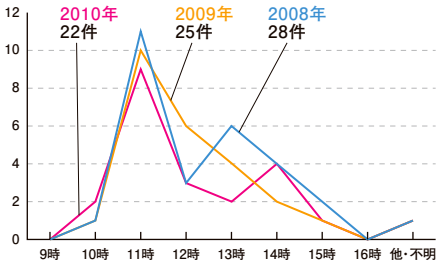
事故の発生時間を分析すると、スキーは1日行事のためか、午前、午後とも受傷が多く、3年間で同じような傾向にあります。また、昼時の受傷割合が少ないのも特徴です。【図4】

これに対して、スケートでは、11時台が一番多くなっています。これは、午前中のプログラムとしての活動が多いためと推測できます。【図5】

【図4】スキー



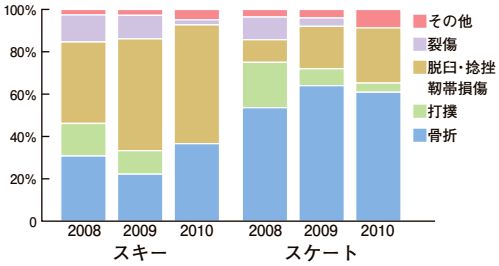
【図5】スケート



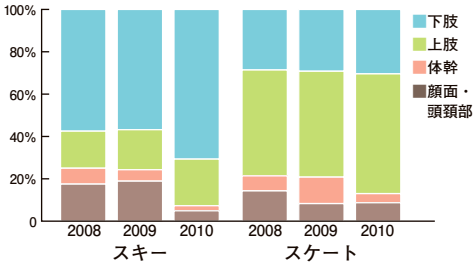
受傷状況は、スキーでは脱臼・捻挫等が4～6割程度を占め、骨折が3～4割程度となっています。スケートでは、骨折が5～6割と多くなっています。【図6】

受傷部位では、スキーは下肢が6割～7割、スケートでは、上肢が5割～6割で推移しています。【図7】

【図6】スキー／スケート受傷状況



【図7】スキー／スケート受傷部位



過去3年間のデータから、個別（【図3】スキーの部門別受傷割合 等）には傾向がありますが、事故件数や受傷状況などは同じように推移しております。指導者の皆様は計画の段階からスカウトに対する安全教育を行い、状況に応じた具体的な指示・指導を徹底し、安全確保に努めてください。次号（1月号）では冬季の事故による怪我の特徴について、詳しく解説したいと思います。

安全委員会